

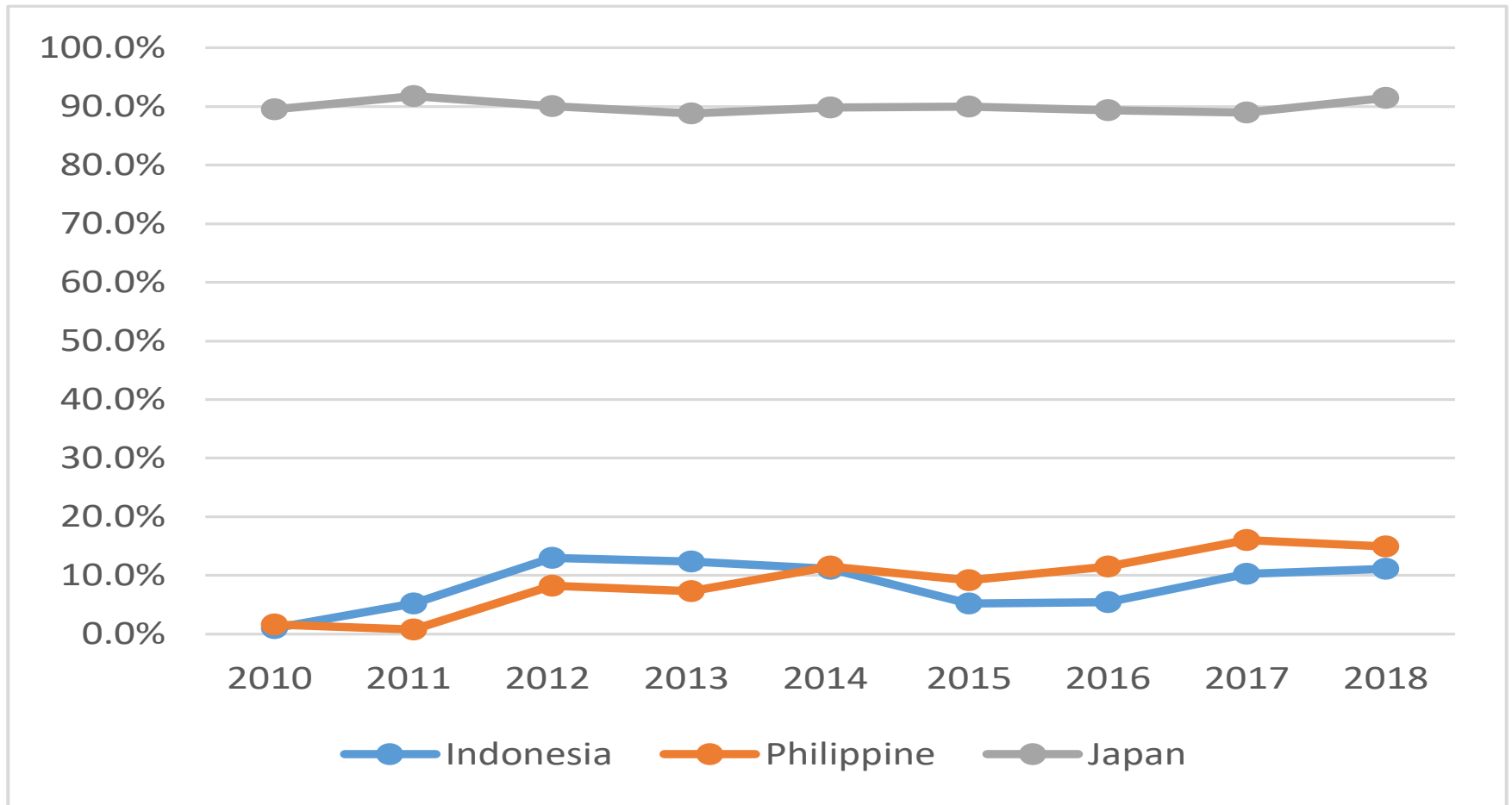
# Re-Challenge Program 2020

MedPA福岡

# EPA 制度の現状と問題点

**\*看護師国家試験合格率の低迷**

**\*不合格にて母国へ帰国した候補生らのサポートの欠如**



# Re-Challenge Programサポート

## 集中講義サポート

看護学・日本語教育  
の専門家が**現地**で  
教育！

## 諸手続き サポート

受験や就労に関する来日  
VISA取得のサポート！

## 就業サポート

福岡県内の医療機  
関への就労をサ  
ポート！

# Re-Challenge Program

両国への医療貢献・国際交流

Step3  
看護師合格

## ＜看護師での就労と継続支援＞

- \* 看護師として就労し、臨床医療を習得
- \* 医療VISA(看護師)取得にて長期滞在可能
- \* キャリアデザインの拡大

Step2  
准看護師合格

## ＜准看護師での就労と国家試験受験支援＞

- \* 准看護師として就労しながら、県医師会内会場での看護師国家試験対策講義を受講
- \* 医療VISA(准看護師)取得にて4年間滞在可能
- \* 看護師国家試験に再チャレンジ

Step1  
準備期間

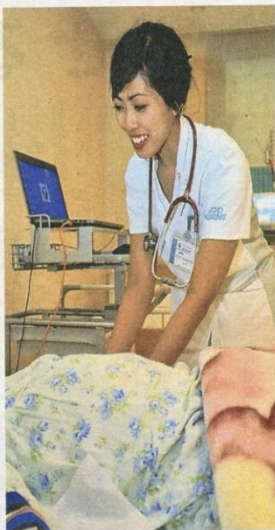
## ＜看護職資格取得のための支援＞

- \* インドネシア・フィリピン現地での集中講義
- \* 看護師国家試験受験
- \* 准看護師試験受験

# プログラムの卒業生たちが活躍しています

## インドネシア人のプリマさん

### 挑戦4回目 看護師合格



久留米総合病院（久留米市簡原町）に勤務するインドネシア人のプリマ・クリスナワティさん(28)が、2月に実施された看護師国家試験に合格した。2011年に経済連携協定（EPA）に基づき看護

### 久留米総合病院勤務「もっとと学びたい」

師候補者として来日したものの、言葉の壁に跳ね返され、いつかは帰国。諦めきれず、県医師会の再チャレンジ事業に応募し、4度目の挑戦で難関を突破した。プリマさんはジャワ島西部のバンドン出身で、大規模病院の看護師として働いてい

患者に優しく語りかけるプリマ・クリスナワティさん

EPAにより日本が看護人材を受け入れていることを知り「新たな経験をしたい」と海を渡った。11年に初めて来日し、受け入れ先の長野県の病院で働いた。日本の四季や食事に苦労しながらも、日本語は日常会話ができるまでに上達。それでも「漢字や医療用語は難しく、国家試験の文章は長く分らなかつた」。在留が認められる3年（当時）で再度試験を受けたが合格できず、14年春に帰国を余儀なくされた。

看護師国家試験に向けた勉強のためシフトを調整するなど病院側のバックアップを受け、今年2月、合格率14・5%（外国人全体）の難関を突破。県医師会によると、再チャレンジ事業で国家試験に合格したのはプリマさんを含む2人だった。プリマさんはみんな優しく支えてくれた」と感謝し「日本の医療現場で、もっともっと学びたい」と活躍を誓っている。（山口新太郎）

### 志願者の国に講師派遣 日本語もみっちり

## 外国人の看護師再挑戦 後押し



北九州市の戸畑共立病院で働くルティ・ファフルロジさん（右）

「私も福歌が好きです。石川さゆりが大好き」。80代の女性患者に人懐っこい笑顔で話し掛ける。インドネシア人看護師のルティ・ファフルロジさん(40)は、北九州市戸畑の戸畑共立病院(215号)の外科病棟で働いている。患者との連絡など全て日本語で話す。母国で看護師となり、ジャカルタの病院で働いた。2009年1月、EPAの枠組みで来日。熊本県の病院で働きながら国家試験に3回挑戦したが、不合格となり、12年に帰国した。母国で看護師を続けていたが、「やはり日本で働きたい」と、16年10月から福岡県医師会の学習支援に参加した。

田窪秀さん(80)から1カ月の集中講義で、日本語と試験対策をいただき返された。17年1月に看護師再挑戦の試験を受けた。合格し、看護師の試験を受けた。その年の6月から戸畑共立病院で働く。週末は医師会の学習支援を受け、18年1月、5回目の挑戦で念願の看護師に合格した。仕事の合間に英語も教えてもらった熊本時代に比べ「教習試験がある人から教えることが、すごくやりやすかつた」と言う。



インドネシア人の看護師養成に向け、協力を約束した調印式

福岡県医師会 2年で9人、約3割合格

今月18日、県医師会がインドネシア保健省と協力を結んだ。候補者が福岡県内の医療機関で勤務することを目指す。この年で計36人を支援し、インドネシア人7人、フィリピン人が看護師に合格し、18年の合格率は38・9%と、EPAの17・7%を大きく上回る。現在、大牟田市など8つの医療機関で働いている。

県医師会は今月18日、県医師会がインドネシア保健省と協力を結んだ。候補者が福岡県内の医療機関で勤務することを目指す。この年で計36人を支援し、インドネシア人7人、フィリピン人が看護師に合格し、18年の合格率は38・9%と、EPAの17・7%を大きく上回る。現在、大牟田市など8つの医療機関で働いている。

「県内では熱い思いと覚悟を持ってほしい。今後、合格者を増やす。事業を拡充したい」とする。同省保健人材開発・活用庁のワスマン・スマントリ長官も「日本に働く人材が増えれば日本の医療介護にも役立つ」と期待している。

# スケジュール

## 2020

- 9月～2月：国内候補生（准看護師）国家試験対策@福岡
- 10月～11月：プログラム説明会
- 2月14日：第110回看護師国家試験
- 3月合否発表→免許申請

※2020年度は新型コロナウイルスの世界的拡大に伴い、活動予定が変更となる場合があります。ご了承下さい。